

**令和 6 年度
八広はなみずき高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室
事業計画**

第 9 期日常生活圏域別地域包括ケア計画 目指すべき将来像

『世代を超えて支え合いつながる地域』

「令和 4 年度墨田区介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の結果では、物忘れ多いと感じている、うつ傾向にあると答えた方が他の圏域と比較して最も高い割合でした。また、地域住民や医療・介護・福祉等の関係者の参加により地域課題を把握する「地域ケア会議」からの意見では、「コロナ禍や疾病の影響により、高齢者が閉じこもりがちになり、筋力低下や外出の機会、多世代交流の機会が減少した」という意見や、「男性高齢者の集いの場が少ない」「医療・介護の連携により、必要なサービスや社会資源に関する情報を地域住民に分かりやすく伝える必要がある」といった様々な意見が挙がっています。

このような意見を基に、八広はなみずきでは目指すべき将来像の達成に向けて、3 か年で 3 つの取り組みを行います。

第一に、地域住民や医療・介護・福祉等の専門職の協力者を増やす取り組みである「八広はなみずき応援団の育成」です。地域住民や専門職が八広はなみずきの活動や自主グループ等への協力を通して、生きがいや、やりがいを感じることができるよう取り組みます。

第二に、高齢者が様々な活動に参加をすることでフレイルや認知症を予防し、地域における認知症の理解促進にも取り組む活動である「いきいき活動プロジェクト」を実施します。

第三に、医療と介護の多職種連携により、高齢者が要介護状態になっても多様な医療、介護サービスを必要に応じて利用でき、住み慣れた地域で安心して生活することができるよう「八広はなみずき地域を支える多職種連携の会」を行います。

この 3 つの取り組みを通して高齢者が地域で孤立せず役割と生きがいを持ち、多様な主体として様々な活動に参画し、地域住民や医療・介護・福祉等の関係者が相互に『世代を超えて支え合いつながる地域』の実現を目指します。

人口	高齢者人口	高齢化率	後期高齢者人口	高齢者人口に対する 後期高齢者人口
25,808 人	6,267 人	24.3%	3,588 人	57.3%

令和 6 年 2 月 1 日現在

＜全センター・相談室共通業務＞

1 総合相談支援

6 年度の 取組の視点	高齢者、家族、地域住民、関係機関からの様々な相談に対し、訪問、電話、面接等によりセンター・相談室で一体的に対応し、関係機関との連携により必要なサービスや制度につなぐ。	
結果	新規相談件数 ○件（前年度 ○件）	継続相談件数 ○件（前年度 ○件）

2 権利擁護

6 年度の 取組の視点	○関係機関との連携により地域住民が安心して権利擁護や虐待に関する相談ができるよう対応する。 ・虐待防止ネットワークの構築のため、専門職向けの弁護士相談会を年 2 回開催する。 ・地域住民向けの権利擁護に関する講座を年 1 回開催する。	
結果	虐待防止ネットワーク（研修、講座等） ○件 （前年度 ○件）	権利擁護相談（虐待相談含む）件数 ○件 （前年度 ○件）

3 包括的・継続的ケアマネジメント支援

6 年度の 取組の視点	○主任介護支援専門員の集いを年 4 回以上開催し、定期的な情報交換や介護支援専門員向け研修の企画・開催を支援する。 ○介護支援専門員のニーズや地域課題に基づく研修会や事例検討会等を年 2 回開催する。 ○関係機関との連携やネットワーク構築支援として、地域のケアマネジャーや医療関係者間を中心に定期的に勉強会などを開催する。	
結果	ケアマネジャー向け研修 ○回（前年度 ○回）	事例検討会 ○件（前年度 ○件）

4 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント

6 年度の 取組の視点	○総合事業のケアプランに地域での取組や活動が反映され自立支援の促進につながる。 ○多職種との連携により自立支援を促すケアプランの検討を行いケアマネジメントの意識の変革を図る。	
結果	プラン件数（自己作成） ○件（前年度 ○件）	プラン件数（委託） ○件（前年度 ○件）

5 認知症支援

6 年度の 取組の視点	○認知症の方が、尊厳と希望を持って住み慣れた地域で自分らしく暮らすことが出来るよう、関係機関との連携、地域の理解と協力のもと、当事者や家族の視点を重視した支援体制の強化を図る。 ○認知症家族会の開催（年 6 回） ○認知症サポーター養成講座の開催（年 10 回） ○オレンジカフェの開催支援（年 12 回） ○チームオレンジ活動支援（年 12 回）（R6 年 4 月～1 チーム活動予定） ○あらゆる機会を通じてオレンジカフェ、家族会の周知を行い、認知症当事者や家族等に参加を促す。 ○認知症初期集中支援チームについて、関係機関、地域住民へ周知を行い、認知症の早期発見・	
----------------	--	--

	対応に繋げることができるよう、必要な方に認知症初期集中支援アセスメント訪問を実施する。	
結果	認知症サポーター数 ○人（前年度 ○人）	家族介護者教室 ○回（前年度 ○回）

6 地域ケア会議

6 年度の 取組の視点	○多職種と連携し、自立支援・重度化防止等に資する観点から、地域ケア個別会議を年 5 回開催し、個別課題や地域課題を把握する。 ○個別ケースの検討を積み重ねていき、共通する地域課題から不足している社会資源を検討する地域ケア推進会議を年 1 回以上開催する。	
結果	地域ケア個別会議 ○回（前年度 ○回）	地域ケア推進会議 ○回（前年度 ○回）

7 生活支援体制整備事業

6 年度の 取組の視点	○高齢者支援総合センター、高齢者みまもり相談室が収集した地域の情報をリアルタイムに共有できるように「まちの情報シート」を作成し、八広・東墨田地域の交流・通いの場を継続して把握する。 ○地域ケア会議で課題に挙げた地域の介護予防（自主グループ）情報を見える化し、地域の高齢者のニーズを把握する。 ○高齢者支援総合センター、高齢者みまもり相談室全体で地域課題を共有し、ニーズに応じて地域住民との協働による新たな集いの場の立ち上げを支援する。	
結果	交流・通いの場 件（前年度 ○件）	

8 見守りネットワーク事業

6 年度の 取組の視点	○高齢者名簿等から対象を抽出しアウトリーチ訪問（高齢者宅への訪問支援）を 600 件行う。 ○安否確認の必要がある場合は、関係機関と連携し、早期の対応を行う。 ○アウトリーチ訪問では本人の状況だけではなく地域の活動状況や、地域活動のキーパーソンの発掘等を意識した聞き取りを行う。 ○地域との関係性が密である個人商店等を中心に、「みまもりだより」配布先の新規開拓を行う。	
結果	実態把握 ○件（前年度 ○件）	安否確認 ○件（前年度 ○件）

<圏域別地域包括ケア計画の重点的な取組>

※取組ごとに記載している目指すべき姿の数字は、以下に記載した高齢者福祉総合計画・第9期介護保険事業計画における5つの目指すべき姿を示しており、このいずれかにつながる内容として設定している。

- 1… 必要に応じて生活支援サービスなどを利用しつつ社会参加して支え合っている
- 2… 多様な介護サービスを必要に応じて利用している
- 3… 切れ目のない円滑な医療・介護連携により必要な在宅療養を受けている
- 4… 身体状況の変化と本人の希望に応じて住まい方を選択している
- 5… 地域における認知症に対する理解が進み、認知症の人が安心してその人らしく暮らしている

取組名 八広はなみずき応援団の育成		目指すべき姿：必要に応じて生活支援サービスなどを利用しつつ社会参加して支え合っている	
背景となる現況・課題		令和4年度のニーズ調査の結果では物忘れ、うつの割合が他の圏域と比較して高かった。高齢者の中には仕事や趣味活動を通して様々な特技を持った方がいるため、個々の趣味や特技を活かして閉じこもり・うつを予防し、生きがいや満足感を感じられる仕組み作りが必要である。 また、医療や介護の専門職の中にも専門性を活かし医療・介護の情報を地域住民に伝えたいとの思いを持った方がいることを実態把握訪問や、専門職との連携の機会から把握した。 担当地域にお住いの高齢者の多様なニーズや課題に対応するためには、センター・相談室の職員だけではなく、地域住民や関係機関など多世代の協力・連携が不可欠である。	
計画策定段階の前年度の事業実績		(計画期間の初年度のため令和6年度は記載なし)	
第9期計画における目的		地域住民が特技や趣味活動を活かし閉じこもりやうつを予防し、自主グループや八広はなみずきの活動に協力することで、生きがいや満足感を感じることができる。	専門職の担い手を募集し、認知症やフレイルなど、高齢者が医療や介護、福祉に関する情報を知ることができるようになる。
令和6年度の取組の指標と方向性	目標	○「八広はなみずき応援団」として活躍する地域住民が増える。 ○児童館や小学校、中学校などの関係機関と連携して多世代交流の取組を行い、地域における活動に参加する高齢者が増加する。	○「八広はなみずき応援団」として活動する医療・介護・福祉等の関係機関の団員が増える。 ○専門職が医療・介護等に関する地域住民向けの講座や活動に関わることで、専門職としてのやりがいを感じることができ、地域住民が医療・介護・福祉に関する情報を知ることができる。
	投入資源	○人材：地域住民、介護相談員、民生・児童委員、見守り協力員、介護予防サポーター、センター・相談室職員 ○実施場所：八広はなみずき活動スペース（多目的室1、2、ふれあい交流スペース、グリーンゾーン）、公園、地域の交流スペース等 ○費用：応援団証やチラシ等の印刷費、飲食費（お茶・お菓子）	○人材：医療・介護・福祉の専門職 ○実施場所：八広はなみずき活動スペース（多目的室1、2、ふれあい交流スペース、グリーンゾーン）、公園、民生・児童委員宅、介護保険施設、地域の交流スペース等 ○費用：応援団証やチラシ等の印刷費、飲食費（お茶・お菓子）

	活 動 計 画	○実態把握訪問や地域住民からの情報収集等の機会を通じて、応援団を募集する。 ○募集した応援団と園芸活動、脳トレ教室のサポート、体操教室の講師等、活動のマッチングを行う。 ○児童館や小学校、中学校などの教育機関と連携し、園芸活動や手芸の会など子供と高齢者が一緒に活動できる多世代交流の取り組みを実施する。	○多職種連の会や八広・東墨田を支える会など、専門職との連携を通して、地域住民向け講座の講師や、活動への協力のマッチングを行う。
	成 果 (アウトカム)を測る指標	○地域住民の応援団数（新規、継続加入者数、活動者数） ○地域住民の応援団への聞き取りやアンケートの実施により、活動への協力が生きがいや、満足感に繋がっているかを確認する。	○専門職の応援団数（新規、継続加入者数、活動者数） ○専門職の応援団への聞き取りやアンケートの実施により、専門職としてのやりがいを感じることができているかを把握する。 ○専門職が講師となった講座の開催により、地域住民が医療・介護・福祉の情報を理解することができたかを聞き取りやアンケートから確認する。
実施結果	活 動 の 実績 (アウトプット)		
	成 果 (成果指標を用いた目標の達成状況)		

取組名 いきいき活動プロジェクト		目指すべき姿： 必要に応じて生活支援サービスなどを利用しつつ社会参加して支え合っている 地域における認知症に対する理解が進み、認知症の人が安心してその人らしく暮らしている
背景となる現況・課題	令和４年度のニーズ調査の結果では、「物忘れが多いと感じている」と答えた人の割合が８圏域中最も高く、階段を手すりや壁をつたわずに上っている、椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていると答えた割合が８圏域中最も低かった。	

		新型コロナウイルス感染症の影響により外出を自粛していた期間があったため、体力低下からフレイルのリスクが高まっているといった意見が地域ケア会議の参加者からも挙がっている。 フレイルや物忘れの進行を予防するためには、高齢者が参加できる自主グループや八広はなみずきの活動など、外出や交流の機会をつくることが重要である。 圏域内の自主グループ活動や八広はなみずきの活動に参加している高齢者の内、約 8 割が女性であり、男性の参加者が少ないため、参加者のニーズに合わせた様々な活動の場から選択できる仕組みを作る必要がある。 また、介護サービスを利用されていた方の状態が改善され、介護サービスから自主グループに移行することが適切な場合でも、自主グループの情報が行き届いていない高齢者への周知が必要である。 介護サービスの利用を終了した方が、自主グループなどの地域活動に参加できるように、常に新しい情報を発信していく必要がある。 電動車椅子を利用している（利用を検討している）方が安心して外出するための情報が不足しているため、自由に外出することができない。地域全体のバリアフリー化を促進することで、介護予防・重度化防止につなげる。	
計画策定段階の前年度の事業実績		(計画期間の初年度のため令和 6 年度は記載なし)	
第 9 期計画における目的		高齢者が様々な活動に参加することでフレイル予防や認知機能の低下を遅らせる意識が高まる。	地域住民に認知症に関する正しい知識や支援のあり方、相談窓口が理解され、認知症の人を地域で支える意識が高まる。
令和 6 年度の取組の指標と方向性	目標	○活動の場の増加と関係者からの活動の情報提供を通じ、活動に参加する高齢者が増加する	○地域に認知症の正しい理解を持つ人や支える人が増える
	投入資源	○人材：八広はなみずき応援団、地域住民、介護相談員、民生・児童委員、見守り協力員、介護予防サポーター、地域リハビリテーション推進事業のメンバー、墨田区スポーツ推進委員、地域福祉プラットフォーム事業職員、センター・相談室職員 ○実施場所：八広はなみずき活動スペース（多目的室 1、2、ふれあい交流スペース、グリーンゾーン）、公園、地域の交流スペース等 ○ネットワーク：東京都作業療法士会、医療機関、介護保険サービス事業所、墨	○人材：オレンジカフェボランティア、八広はなみずき応援団、地域住民、介護相談員、民生・児童委員、介護予防サポーター、センター・相談室職員 ○実施場所：八広はなみずき活動スペース（多目的室 1、2、ふれあい交流スペース、グリーンゾーン）、民生・児童委員宅、介護保険施設、地域の交流スペース等 ○ネットワーク：認知症疾患医療センター、医療機関、介護保険サービス事業所、教育機関（小学校・中学校、高等学校、児童館）、図書館、墨田区社会福祉協議会、すみだボランティアセンター等

		田区社会福祉協議会、墨田区環境保全課、墨田区スポーツ振興課、教育機関（小学校・中学校、高校、児童館）、図書館 ○費用：園芸活動に必要な物品購入費、手品の会で使用する物品購入費、活動資料印刷費、飲食費（お茶・お菓子）等	○費用：脳トレで使用する折り紙購入費、活動資料印刷費、飲食費（お茶・お菓子）等
	活動計画	○自主グループの新規立ち上げ、継続支援 ○体力測定会や自主グループ連絡会の開催。 ○ボッチャや健康マージャンなど、男性高齢者のニーズに合い、参加しやすい通いの場を増やす。 ○八広はなみずきの自主グループ情報を地域住民に周知するため、センター・相談室からの働きかけのほか、民生委員や地域住民、ケアマネジャーからの情報提供が行われるよう、関係者に自主グループの情報を配布、周知する。 ○令和 5 年度に作成したバリアフリーマップの活用により、電動車椅子の利用者、地域住民、医療・介護等の関係者と車椅子の街歩きを実施する。 ○済生会向島病院との協働により、フレイル予防等に関する地域医療健康講座を開催する。	○認知症に関する正しい知識や相談窓口等を理解することができるよう、認知症疾患医療センターや医療機関、介護保険サービス事業所等との協働により、地域住民向け講座を開催する。 ○認知症の当事者やボランティアが参加できる活動の場の新規立ち上げ、継続支援
	成果（アウトカム）を測る指標	○自主グループ数（新規立ち上げ支援・継続支援） ○体力測定会の開催数、参加者へのアンケートや聞き取りにより、体力の維持・向上のモチベーションに繋がっているかを確認する ○自主グループ連絡会の開催数 ○男性の活動参加人数と前年度からの増加数の比較 ○自主グループ参加者や介護予防サポーター、八広はなみず応援団等にアンケートを実施し、生き甲斐や役割をもつことによ	○地域住民向け講座の開催数、参加者数 ○講座の参加者からの聞き取りやアンケートの実施により、認知症に対する理解が深まった人数を確認する ○認知症の当事者やボランティアが参加できる活動の場の新規立ち上げ数、継続支援数、活動の場への参加者数 ○当事者やボランティアからのアンケートの実施や聞き取りによる評価

		て健康観が変化したなどの効果を確認する ○地域医療健康座の参加者への聞き取りやアンケートの実施によるフレイル予防の意識の変化を確認する ○車いす街歩き活動の参加者への聞き取りやアンケートの実施によりバリアフリーマップの効果を確認する	
実施結果	活動の実績 (アウトプット)		
	成果 (成果指標を用いた目標の達成状況)		

取組名 八広はなみずき地域を支える多職種連携の会		目指すべき姿：切れ目のない円滑な医療・介護連携により必要な在宅療養を受けている	
背景となる現況・課題		医療や介護が必要になっても自宅で暮らし続けたいと考えている高齢者は多いが、そのためにどのような医療・介護サービスを受けることができるのかといった情報が行き届いていない高齢者がいるため、在宅医療や介護に関する情報を必要としている高齢者に届けていく必要がある。 また、他の圏域と比較して居宅介護支援事業所が4か所、訪問看護事業所が1か所など介護サービス事業所の数が少ないため、圏域の医療・介護サービス事業所との連携が欠かせない。	
計画策定段階の前年度の事業実績		(計画期間の初年度のため令和6年度は記載なし)	
第9期計画における目的		医療・介護の多職種との連携が深まり、地域住民が必要としている医療、介護サービスの情報が把握しやすくなることで、高齢者が要介護状態になっても地域で暮らし続けることができるという意識が広がる。	
組 の 指 標 と 方 向	令和6年度の取 組 の 目 標	○多職種連携の会を通して医療・介護の顔の見える関係性が深まる。 ○多職種連携の会に参加した専門職が、医療・介護の情報を地域住民に発信する講座を実施することで、地域住民が医療・介護サービスに関する情報を把握しやすくなる。 ○八広はなみずき圏域の介護サービス事業所との顔の見える関係性の構築と定期的な情報交換の場である「八広・東墨田地域を支える会」を立ち上げる。	

	投入資源	○人材：医療・介護・福祉の専門職、八広はなみずき応援団、センター・相談室職員 ○実施場所：八広はなみずき活動スペース（多目的室1、2、ふれあい交流スペース、グリーンゾーン）、介護保険施設、地域の交流スペース等 ○ネットワーク：医療機関、介護保険サービス事業所等 ○費用：チラシや活動資料印刷費、飲食費（お茶・お菓子）等
	活動計画	○八広・東墨田を支える会を2か月に1回開催し、八広はなみずき圏域の介護保険サービス事業所との顔の見える関係性の構築や情報交換の場を作る。 ○MSW 連絡会や認知症疾患医療センター、介護サービス事業所との協働により、多職種連携の会や事例検討会を開催する。 ○医療・介護・福祉の専門職との連携から八広はなみずき応援団を募集し、医療・介護・福祉に関する情報を地域住民に発信する講座を開催する。
	成果（アウトカム）を測る指標	○多職種連携の会や事例検討会、八広・東墨田地域を支える会の開催数と参加人数 ○多職種連携の会や事例検討会、八広・東墨田地域を支える会に参加した専門職が講師となった、医療・介護に関する講座の開催数、講座参加者数を確認する ○講座参加者へのアンケートの実施や聞き取りにより、医療・介護・福祉に関する情報が把握できた人数を確認する
実施結果	活動の実績（アウトプット）	
	成果（成果指標を用いた目標の達成状況）	